



★トマトキバガによる被害が確認されました★

本年6月、府北部のトマトハウスにおいて、トマトキバガの虫体及びトマトの被害を確認しました。成虫は全長5mm程度、幼虫は最大で全長8mmの小さな蛾ですが、幼虫が葉を薄皮残して食害するとともに、果実の表面を食害します（写真1～4）。

本虫は、遠方から風に乗って飛来してくると言われており、当所が設置したフェロモントラップの調査では過去2年と異なり、本年は4月から誘殺を認めています（図）。

今後トマト等で被害が拡大するおそれがありますので、施設では目合い0.4mm以下の防虫ネットで侵入を防ぎ、剪定残渣はビニル袋で密閉する等適切に処分してください。葉に被害痕が見られる等、発生が疑われる場合は最寄りの農業改良普及センターまたは病虫害防除所に連絡してください。なお、発生を確認した場合、トマトおよびミニトマトでは薬剤防除を行ってください（表）。

※トマトキバガに関する詳細は、当所発表の令和5年10月12日付け「発生予察特殊報第1号」を参照してください。

https://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/tokusyu2023_01.pdf



写真1 成虫（全長5mm程度）



写真2 幼虫（全長最大8mm、背面に黒色の横帯がある）



写真3 葉の被害
（薄皮残して食害し、潜り込む）



写真4 果実の被害

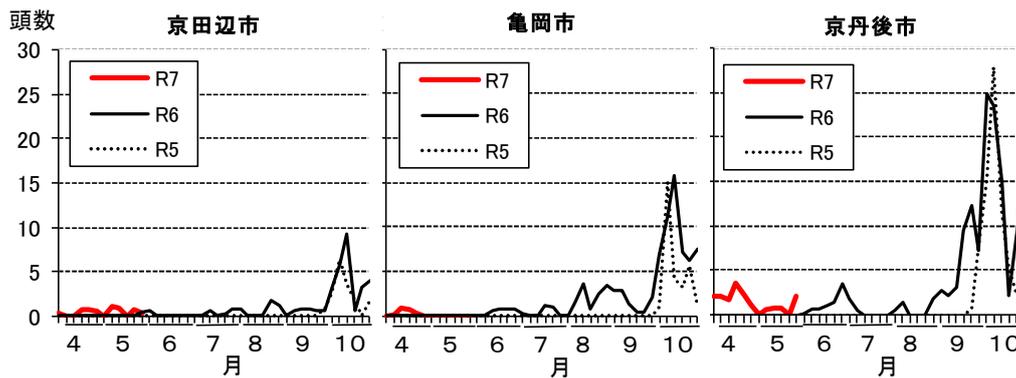


図 フェロモントラップによるトマトキバガの誘殺状況

表「トマト」、「ミニトマト」でトマトキバガに登録のある農薬（令和7年6月11日現在）

IRAC コード*	農薬名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数
5	ディアナSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
	ラディアントSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
	ダブルシューターSE	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内(スピノサド2回以内)
6	アフーム乳剤	2,000倍	収穫前日まで	5回以内	散布	5回以内
	アニキ乳剤	1,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	アグリメック (ミニトマトは登録なし)	500～1,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
11A	エスマルクDF	1,000倍	発生初期 (但し、収穫前日まで)	—	散布	—
	ゼンターリ顆粒水和剤	1,000倍	発生初期 (但し、収穫前日まで)	—	散布	—
	チューンアップ顆粒水和剤	1,000倍	発生初期 (但し、収穫前日まで)	—	散布	—
13	コテツフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
22A	トルネードエースDF (ミニトマトは登録なし)	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
	ファイントリムDF (ミニトマトは登録なし)	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
22B	アクセルフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
28	ベネビアOD	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	5回以内(但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の株元灌注は1回以内、定植後の散布は3回以内)
	ベリマークSC	400株あたり25mL 液量:400株あたり 10～20L(1株あたり 25～50mL)	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	5回以内(但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の株元灌注は1回以内、定植後の散布は3回以内)
	プリロッソ粒剤	2g/株	育苗期後半 ～定植時	1回	株元散布	5回以内(但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の株元灌注は1回以内、定植後の散布は3回以内)
	プリロッソ粒剤オメガ	2g/株	育苗期後半 ～定植時	1回	株元散布	5回以内(但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の株元灌注は1回以内、定植後の散布は3回以内)
	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
	ヨーバルフロアブル	2,500倍	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内(但し、灌注は1回以内、散布は3回以内)
30	グレーシア乳剤	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
UN	ブレオフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内

* 殺虫剤コード。有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号で、本コードが異なる薬剤を使用すると、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができる。

注) 農薬の使用に当たっては、ラベルやインターネット等で最新の使用方法や注意事項を確認してください。

また、各薬剤の使用回数を守るとともに、同一成分を含む農薬の総使用回数についても注意してください。